

令和6年度

「利島村教育委員会の事務の管理及び執行の状況の点検及び評価」
に係わる報告書

- 1 本報告書の趣旨について
- 2 利島村の教育大綱について
- 3 利島村教育委員会の概要
- 4 令和6年度新規主要事業の概要
- 5 利島村教育委員会の事務の管理及び執行の状況の点検及び評価
- 6 有識者からの意見

令和7年8月
利島村教育委員会

1 本報告書の趣旨について

(1) 趣 旨

- 利島村教育委員会は、毎年、主要な施策や事務事業の取組状況について、点検及び評価を行い、課題や方向性を明らかにすることにより、効果的な教育行政の一層の推進を図る。
- また、点検及び評価の結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表することにより、村民への説明責任を果たし、村民に開かれた教育行政を推進する。

※ 参考（根拠法令）

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第二十六条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

(2) 実 施 方 法

- ① 毎年度策定する「利島村教育委員会教育目標」を対象とし、点検及び評価を行う。
- ② 点検及び評価は、当該年度の施策・事業の進捗状況を総括するとともに、課題や今後の取組の方向性を示すものとし、毎年一回実施する。
- ③ 施策・事業の進捗状況等を取りまとめ、教育委員会において点検及び評価を行う。
- ④ （学識経験を有する者の知見の活用を図るため、「点検・評価に関する有識者」を置く。
（ア）「点検・評価に関する有識者」は、学識経験を有する者の中から教育委員会が委嘱する。
（イ）「点検・評価に関する有識者」の任期は3年を原則とする。（任期の延長・短縮は妨げない。）
- ⑤ 教育委員会において、点検及び評価を行った後、その結果をとりまとめた報告書を利島村議会へ提出する。また、報告書は公表するものとする。

はじめに

地教行法第二十六条の趣旨に鑑み、利島村の教育施策の改善に活かすため、教育委員会による自己評価を実施した。この点検・評価結果を来年度の教育委員会の取組に反映し、効果的な教育行政の推進を図っていく。

なお、評価基準については、以下のように設定している。

※ 評価基準

評価	A	B	C	D
達成率	100%～75%	74%～50%	49%～25%	24%～0%

※ 評価の目安

A：他自治体と比較しても優れており、効果的な取組が推進できている。

B：多少の改善の余地があるものの、効果的な取組が推進できている。

C：最低限の取組は実施できているが、改善の余地があり、来年度の改革を検討すべきである。

D：定めた教育目標を達成できておらず、来年度の改革が必要である。

点検・評価結果概要

評価	A	B	C	D
1 教育委員会の活動（4項目）	2	2	0	0
2 教育委員会管理事務（5項目）	2	3	0	0
3 教育長委任事務（4項目）	0	4	0	0
4 学校教育（15項目）	1	13	1	0
5 社会教育（5項目）	0	5	0	0
6 その他（2項目）	0	2	0	0

2 利島村の教育大綱について

本教育委員会では、令和6年1月24日に開催された利島村総合教育会議において新しい教育大綱『利島村“人づくりが島づくり”大綱』を策定しました。

この教育大綱に則り、島の宝である子供たちを島全体で支えていき、その支える島民自身も成長できる。そのような利島を目指していきます。

具体的な内容は下記のとおりです。

利島村“人づくりが島づくり”大綱～利島を良くする「自然性」の人：「当事者」「自立」「一体感」～

利島村及び利島村教育委員会は、利島の将来像『生き生きとした活力のある島 自立する村 利島』を実現するため、利島村民や利島にゆかりある人々（利島人）の力に最大の価値をおきます。

一人ひとりが自然性を発揮し、村の将来を創る「自立した当事者」として活躍する「一体感のある島」利島の実現を目指します。

《3つの柱》

そのために、以下3つの柱を設定し、利島の強みを生かした前向きな取組を推進します。実施する取組は、村民の皆様からの生の声と数量的なデータの両面から効果検証し、改善していきます。

- (1) 一人ひとりが、利島や世の中をより良くする「当事者」として生涯学び合い、高め合い、行動し合う島づくり
- (2) 子供たちの「15の春」に向けた「自立」をみんなで実現する島づくり
- (3) 多様性のもとで支え合い、住みやすさと幸福を実感できる、「一体感」のある島づくり

上記の《3つの柱》を実現していくために、本教育委員会では下記のような取り組みを推進していきます。

- (1) 一人ひとりが、利島や世の中をより良くする「当事者」として生涯学び合い、高め合い、行動し合う島づくり
 - 「評論家」ではなく物事を自分事として捉える「当事者」として、利島や世の中を良くするために行動できる人材の育成
 - 周囲と協調しながら、失敗を恐れずに前向きに挑戦できる人材の育成
 - 島内外の知恵・知見を生涯にわたって学び続け、現在利島に住んでいてもいなくても利島に貢献できる仕組みの充実

(2) 子供たちの「15の春」に向けた「自立」をみんなで実現する島づくり

- 「利島ならではの」環境を生かし、予測不可能な時代にあらゆる場所で活躍できる「利島っ子」を育てる義務教育学校
- 利島の担い手の一員である教師自身が学び続けて成長できる、「教師が育つ利島」の実現
- 「15の春自立シート」や「利島っ子カリキュラム」に基づき、保育園・学校・家庭・地域等の関係者一丸で子供を応援し、子供と大人が共に成長する地域ぐるみの子育て

(3) 多様性のもとで支え合い、住みやすさと幸福を実感できる、「一体感」のある島づくり

- 利島に「住んでみたい」「住み続けたい」「帰ってきたい」と思う、安心できる「居場所」と盛り上がる「舞台」の創出
- 「憶測」ではなく「対話」で溢れるようにするための、お互いを認めて語り合える場づくり
- 一人ひとりの将来と村の将来について見通しを持ち、安心して利島に住み続けられるようにするための支援の充実

3 利島村の教育大綱について

(1) 教育委員会の構成

職 名	氏 名	任 期
教育長	弟子丸 知樹	令和4年10月1日～令和6年9月30日
〃	三室 哲哉	令和6年10月1日～令和7年9月30日
教育長職務代理者	土屋 治雄	令和4年10月1日～令和8年9月30日
教育委員	森山 武	令和6年12月17日～令和10年12月16日

(2) 教育委員会の開催

開 催	開 催 日	区 分	出席者数
第1回	令和6年4月26日	定例	3名
第2回	令和6年5月27日	定例	3名
第3回	令和6年7月1日	定例	3名
第4回	令和6年8月7日	定例	3名
第5回	令和6年9月6日	定例	3名
第6回	令和6年9月20日	臨時	3名
第7回	令和6年10月28日	定例	3名
第8回	令和6年11月25日	定例	3名
第9回	令和6年12月24日	定例	3名
第10回	令和7年1月27日	定例	3名
第11回	令和7年2月28日	定例	3名
第12回	令和7年3月24日	定例	3名

4 令和6年度新規主要事業の概要

(1) 「15の春」子供・家庭事業

事業概要	<p>高校進学にあわせて利島村（親元）を離れて生活する9年生（中学3年生）とその保護者の経済的負担を軽減するために、進学に向けた模擬試験の受験料及び模擬試験受験に係る交通費を補助する事業を実施する。</p> <p>生徒1人当たりの補助金額：年間50,000円（上限）</p>
執行状況	<p>100,000円</p> <p>（利用生徒数：2名）</p>
評価	<p><u>評価根拠</u></p> <p>A 80</p> <p>教育委員会に届いた保護者の声を実現した、令和6年度からの新規事業。9年生（中学3年生）を対象に、パンフレットでの周知を行った。内地での実際の受験に近い環境を経験することができ、保護者からも継続の要望をいただいている。</p> <p>離島ということで子どもたち受ける制限を可能な限り減らしていけるよう、他の補助制度と同様に継続していく。</p>

(2) 自動芝刈り機（オートモア）導入事業

事業概要	<p>利島小中学校の校庭は、学校行事をはじめとして村内行事や社会体育活動等に広く活用されている。また、急峻かつ狭小な地形である利島村内において、災害時等にも活用が想定される数少ない平地でもある。</p> <p>一方、天然芝ということで維持・管理には、教職員やPTAをはじめ多大な人的コストがかかっている。</p> <p>芝生管理を効率的に行うため、校庭に自動芝刈り機を導入する。</p>
執行状況	<p>1,899,700円</p>
評価	<p><u>評価根拠</u></p> <p>A 80</p> <p>自動芝刈り機の導入により、人的コストの削減につながった。ランニングコストについても、替え刃の購入等の年間数万円程度に収めることができている。</p> <p>また、定期的な人事異動がある本村にとって、担当者によって経験等に関わらず一定の芝生管理を行える自動芝刈り機の導入は、長期的な視点からも効果的な導入になったと認識している。</p> <p>長く使用していけるようにメンテナンスを行っていくとともに、引き続き効果的な芝生管理について対応を検討していく。</p>

(3) 利島小中学校耐力度調査委託事業

事業概要	<p>村内唯一の学校である利島村立利島小中学校は、一部では建設から50年以上経過している。塩害等の要因も重なり外壁や内装などに劣化が多く見られる。</p> <p>学校運営に影響が出る前に都度修理や補修を行っているが、対応が難しい箇所も出てきている状況である。</p> <p>今後の改修等を視野に入れた現状の把握が行うために、耐力度調査を実施する。</p>
執行状況	2, 168, 000円
<p>評価</p> <p>B 65</p>	<p><u>評価根拠</u></p> <p>今回の耐力度調査の結果から、施設の構造に影響が出るほどの劣化や破損がないことが確認できた。</p> <p>ただ、錆やひび割れなど老朽化は目立っており、今度何らかの対応は行っていかなければならないことも確認できた。</p> <p>今回はすべての学校施設の耐力度調査を実施できたわけではないが、今回の結果を踏まえて調査の必要性を再認識することができた。</p> <p>引き続き調査を行い、現状把握に努める。</p>

(4) 学校防犯カメラ交換工事事業

事業概要	<p>既存の学校防犯カメラは耐用年数を超過しており、録画ができていない場合があるなど本来の機能を十全に発揮することができない状態となっていた。</p> <p>子どもたちが安心して学校生活を送ることができるように、防犯カメラの交換工事を実施する。</p>
執行状況	1, 045, 770円
<p>評価</p> <p>B 70</p>	<p><u>評価根拠</u></p> <p>防犯カメラが正常に機能したことで、学校の安全管理体制を整えることができた。長く使えるようにメンテナンス等を行いながら、引き続き学校の安全管理を行っていく。</p>

5 利島村教育委員会の事務の管理及び執行状況の点検及び評価

(1) 教育委員会の活動

① 教育委員会の会議の運営

評価	評価根拠
B 70	<p>定例教育委員会において、利島村の教育全般について意見交換を実施。</p> <p>後任の教育長人事については、定期的に報告、協議を行うことで円滑に進めていくことができた。</p> <p>これまでの状況を踏まえつつ、学校の状況や教育委員会が実施する各種活動の今後について議論を行った。</p>

② 教育委員会の会議公開

評価	評価根拠
B 60	<p>必要に応じて定例教育委員会の内容を公開できるよう、議事録の作成を行っている。</p>

③ 教育委員会と村長との連携

評価	評価根拠
A 90	<p>小規模自治体だからこそできる連携のしやすさを活かし、学校教育の充実や学校と地域の連携促進等、教育委員会の活動全般にわたり、村長と教育長とで密に意見交換を行い、教育施策を実施した。</p> <p>これまで続けてきた事業についても、村の現状と照らし合わせながら少しずつ変えていく必要が出てきており、協議を続けている。より利島村に合わせた子育てのしやすい環境づくりの観点から、家庭の教育費負担軽減に引き続き努めている。</p>

④ 教育委員の学校支援（学校訪問、学校施設点検）

評価	評価根拠
A 90	<p>1村1校という環境であるため、学校への支援は柔軟に対応するようにしている。情報交換も密に行い、日常的に連携している。</p> <p>教育長を中心とした学校訪問、消防設備点検等をはじめとした学校設備点検をこまめに実施している。今後も引き続き丁寧に学校への支援を行っていく。</p>

(2) 教育委員会が管理・執行する事務

① 教育行政の運営に関する基本方針を定めること

評 価	評価根拠
B 50	地方教育行政の組織及び運営に関する法律に規定されている教育の機会均等、教育水準の維持向上及び地域の実情に応じた教育の振興は図られている。 教育大綱、教育委員会目標に則り、基本方針を定めた。

② 教育委員会規則・規程の制定・改廃すること

評 価	評価根拠
B 50	教育委員会規則・規定の見直しは、必要に応じて行っている。

③ 利島村奨学金制度の事務に関すること

評 価	評価根拠
A 80	奨学資金貸付事務は滞りなく行っている。「広報としま」を活用し、村民に周知している。 他自治体に比べても手厚い支援制度であると認識している。

④ 離島高校生就学支援事業の事務に関すること

評 価	評価根拠
A 80	平成24年度に立ち上げた制度であり、奨学資金と同様に「広報としま」を活用し、村民に周知している。 支給額は4万円となっており、他自治体に比べても手厚い支援制度であると認識している。

⑤ 教育予算等の議会の議決に向けた原案を作成すること

評 価	評価根拠
B 70	<p>令和6年度予算については、「利島ならではの」教育の充実発展に資するべく、関係者への意見聴取等も行いながら原案を作成、要望した。</p> <p>村の財政状況が厳しい中、全ての要望を実現できたわけではないが、教育の質を向上させるための予算要望を行った。</p> <p>来年度は、GIGAスクール構想の第2期（NEXT GIGA）や学校ネットワーク更改時期など大きな事業が控えている。適切な予算計上と執行に向けて、準備を着実にやっていく。</p> <p>現在実施している事業について、より効果的な実施となるよう情報収集等を丁寧に行っていくとともに、利島の強みを生かした「特色ある教育活動」を推進していく。</p>

(3) 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務

① 利島村教育大綱及び教育委員会教育目標の制定・改廃

評 価	評価根拠
B 70	<p>令和6年1月に策定した「利島村“人づくりが島づくり”大綱」に則り、利島村教育委員会では学校の児童・生徒のみならず、島民全体で支えていける「一体感」のあり島づくりを進めている。</p> <p>令和6年度より実現した義務教育学校「利島村立利島小中学校」の開校をはじめとし、少しずつ新たな取り組みを行っているところである。</p> <p>社会状況等も大きく変わり、多様性の尊重による様々な考え方があり現在のなかで、利島村に適した取り組みを実践していく。</p>

② 人権尊重教育の推進

評 価	評価根拠
B 70	<p>児童生徒による人権の花の栽培、人権作文への応募など人権尊重に関する活動は継続的に行っている。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響で実施できなかった今年度の講師を招聘した道徳授業公開講座についても、来年度以降も状況を見ながら再開していく予定である。</p> <p>引き続き人権尊重教育については、積極的に推進していく。</p>

③ 社会性を育む教育の推進

評 価	評価根拠
B 70	<p>利島村は小規模だからこそ、社会性を育む教育の推進に注力しており、各種行事における児童・生徒の全員発表など、「利島ならではの」教育を実践できている。</p> <p>これまで児童生徒が社会性を育む行事（島外学習、修学旅行、海外派遣事業等）に対して補助金を交付し、活動の活性化を図っている。</p>

④ 児童・生徒の他地区との交流

評 価	評価根拠
B 70	<p>多摩・島しょ広域連携活動助成事業として、夏期の「利島サマースクール」、冬期の「ジュニアスキー教室」を行い、利島村と友好村の檜原村の小中学生が交流を行っている。</p> <p>また、北海道利尻町の児童との交流事業を毎年で実施するなど、良い関係性の中での交流を実現できている。</p>

(4) 学校教育

① 人権尊重教育の推進

評 価	評価根拠
B 70	<p>いじめや差別に関する取組（生活アンケート、スクールカウンセラーによる全児童・生徒の個別面談等）の実施、日常生活における他人との関わり方（挨拶、礼儀等）を重点とする指導を行った。</p> <p>また、人権擁護協会が発行する人権啓発資料の配布、人権作文の提出等に取り組んでいる。</p> <p>引き続き人権尊重の大切さを伝えていく。</p>

② 個に応じた学習指導

評 価	評価根拠
B 70	<p>利島村は、1学年最大5名というとても小規模の地域である。他の地域と比較しても、とても丁寧な「個に応じた学習指導」ができる環境だと認識している。</p> <p>資格検定に向けた全校体制による放課後学習教室の実施、教員が個別の質問に対応できる体制などを通し、児童・生徒の自主的な学習姿勢の向上が見られた。</p> <p>状況に応じたオンラインでの授業参加、子どもたちの習熟度を反映した授業進行など個別指導に近い状態で学習指導を行うことができている。</p>

③ 自尊・他尊感情を育て、豊かな心をはぐくむ道德教育

評 価	評価根拠
B 70	<p>「特別な教科 道德」を中心に教育活動全般を通して、児童・生徒一人一人の自尊感情を高める道德教育の充実に努めた。</p> <p>本村では児童生徒の人数が少ないため、各行事や活動については1年生から9年生まで学年の垣根を越えて一緒に実施している。異学年との意見交換や支援・協力することから、他尊感情を理解し互いを認め合うことの大切さを学んでいく環境が整っている。</p> <p>挨拶や礼儀などの日頃からの関わりから自尊・他尊感情を育ていけるように、職員会議等で教職員に周知するとともに、保護者会でも同様の内容で啓発をすることで、児童生徒の自尊感情の醸成に努めた。</p>

④ 健康の保持・体力の増進を図る教育活動

評 価	評価根拠
A 80	<p>授業や月1回の講話（養護教諭・食育担当・栄養士）、広報（保健だより、給食だより）など、保健指導や食育指導を組織的に行なえるよう整備したことで、健康や食の大切さについて児童・生徒の理解を深められた。</p> <p>利島の子どもたちは、放課後子ども教室等の活動を通じて、全員が何らかのスポーツに関わっている。時には大人たちに混ざり一緒に運動したりと、地域の中に健康の保持・体力の増進を図れる活動が用意されている。</p>

⑤ 小中一貫教育の継続

評 価	評価根拠
B 70	<p>これまでも時間割編成を工夫することで前期課程における「教科担任制」への先進的な取り組みが実現できており、義務教育学校への移行を経て、1年生から9年生までの一体的な教育カリキュラムの作成が可能となった。小中教員の協働による授業前・後の打ち合わせも実施できており、利島の実態に合わせた学習活動を進めることができた。</p> <p>多くの行事が小中合同で行われており、全教員が協働して企画・運営をすることで、各学年の児童・生徒の発達段階を確認し、指導に活かす体制が整備されていることは、利島小中学校の強みである。</p>

⑥ 生活指導の充実

評 価	評価根拠
B 70	<p>とても小規模な地域である特徴を生かし、生活指導部を中心に児童生徒の様子は丁寧に把握しており、問題が発生する前に対応できるよう気を配っている。また、問題行動等の防止対策（注意喚起・事前指導）も並行して行っており、学期末の保護者会では、生活指導主任から講話を行い、学校が実施する生活指導について保護者との共通理解を図った。</p> <p>職員会議（月1回）、教育相談連絡会やいじめ対策委員会での児童生徒情報交換を通して、定期的に児童生徒の生活指導上の問題について情報共有している。</p> <p>生活指導上の問題が発生した際は、事実確認に基づき管理職及び生活指導部が指導・対応を検討し、関係教員やスクールカウンセラーと連携して本人及び家庭と対応している。</p> <p>指導記録をデジタル化することで、個人情報の漏洩対策を進めるとともに、素早い情報の共有が可能となった。</p>

⑦ キャリア教育の推進

評 価	評価根拠
B 70	8年生（中学2年生）は、職場体験と島外学習における職場訪問を実施している。前期課程では、キャリアパスポートを活用して、児童生徒の職業観・勤労観の醸成を図るとともに、キャリア教育の4能力（人間関係形成・情報活用・将来設計・意思決定）の発達段階的向上に努めた。

⑧ 故郷教育の推進

評 価	評価根拠
B 70	<p>利島村の大切な産業である椿について知ってもらうための「かめりあ大作戦」という名前の体験事業の実施、利島村の歴史や文化をまとめた独自の教材である「わたしたちの利島」を活用した授業などを行っている。</p> <p>農業協同組合をはじめとした地域団体のご理解やご協力をいただきながら、学校の授業を通じて、子どもたちが利島について学ぶ機会を準備した。</p> <p>これまでの伝統や過去の蓄積を活用していくとともに、子どもたちのより良い学びにつながる故郷教育の実践について展開していく。</p>

⑨ 家庭・地域に開かれた学校

評 価	評価根拠
B 50	<p>これまで同様に学校公開週間や学校公開日を設定して、家庭・地域に開かれた学校となるよう取り組みを進めている。</p> <p>利島村での学校行事は、子どもたちが主役となる行事であるとともに、地域の方々も参加する地域行事としての側面もある。運動会や文化祭、ロードレース大会など、村内告知タブレットを活用して村民に呼びかけることで、地域の方々の参加が多数見られた。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響で昨年度までは中止していた一般参観等も再開することができ、地域が一体となって子どもたちを見守り育てていく「利島ならではの」家庭・地域の開かれた学校の実現に取り組んだ。</p> <p>子どもたちの負担軽減や教職員の働き方改革などで今まで通りとはいかなくなり、学校と地域が密に連携した持続可能な学校行事・地域行事の在り方を検討していく中で、試行錯誤を進めている段階である。</p> <p>保護者や地域住民も参加した年3回の学校運営協議会で学校状況について情報共有する一方で、委員の皆様から学校への地域の声を聞き、学校運営につなげた。</p> <p>引き続き学校運営協議会での検討や保護者からの声を大切にして、利島の実情に即した学校と家庭・地域の開かれた学校の在り方を模索していく。</p>

⑩ 学校組織を生かした学校経営

評 価	評価根拠
B 70	<p>毎朝の管理職打ち合わせ等、管理職間の報・連・相が十分に行えた。</p> <p>企画運営委員会において、小中分掌主任に経営方針に基づいた業務遂行の徹底を図ることで、自ら率先し他教員への指示・調整を行わせることができ、円滑に運営が進められた。</p> <p>教員一人一人の能力を生かせる業務に取り組みせ、実績（成果）を挙げることで自信と意欲が高まり、組織貢献力が育成できた。</p>

⑪ 教員としての資質・能力向上のための研修活動

評 価	評価根拠
B 60	<p>島しょ研修、実践事例研修、校内研究会を通して、新学習指導要領における新しい教育、特に、「見方・考え方」に焦点を当てた授業作りと「意図的・計画的な振り返り」について積極的に学ぶ機会を設けている。活発な議論が展開される校内研究は、講師からも高い評価を受けている。</p> <p>令和6年度より「授業改善推進拠点校」の登録を受けて、利島村の取り組みを発信するとともに、他校の取り組みを知り、取り入れる機会を設けている。大島出張所の指導主事にもご助力をいただきながら、子どもたちにより良い学びを提供できる体制を整えた。</p> <p>「東京教師道場」という研修事業への参加など、教員としての資質・能力向上の意向を尊重し、サポートを行っていく。</p>

⑫ 学力向上を図るための方策と成果

評 価	評価根拠
B 70	<p>各教科で「授業改善プラン」を作成し、児童・生徒の実態に応じた指導の徹底を図った。</p> <p>基礎学力定着を図る取組（東京ベーシックドリル・副教材等の活用）に基づいて、基礎知識や技能の反復学習を取り入れることで、概ね定着が図れた。</p>

⑬ 外国語指導、英語指導の取り組みとその成果

評 価	評価根拠
B 70	<p>A L Tと後期課程英語科が、前期課程の担任と共に、1・2学年では毎週1回の朝の外国語活動、3・4学年では年間35時間の外国語活動、5・6学年では年間70時間の英語の指導を実施した。また、前期課程を対象に、週1回の英語部を開設し、E G T (E n g l i s h G a m e T i m e) を1年生～4年生と5・6年生に分けて、年3回実施した。後期課程英語科教員の意欲的な指導により、前期課程担任の指導技術が向上しているとともに、前期課程の英語・英会話への興味関心・技能が高まっている。</p> <p>後期課程において、全学年毎時間A L Tによる指導時間を確保し、ネイティブ英語の聞き取り、英会話での口語表現、英作文等を計画的・重点的な学習として行っており、英語力・英会話力が高まっている。</p>

⑭ G I G Aスクール構想実現への取り組みについての成果と課題

評 価	評価根拠
C 40	<p>児童生徒・教職員への一人一台端末の整備が終わり、昨年度よりも活用が進んでいるものの、児童生徒・教職員ともに「毎日活用する」には至っていない状況である。</p> <p>全国の自治体において、「まずは活用を進めることで効果的な実践が生まれる」傾向にあるため、来年度、まずは活用頻度を上昇させることが必要である。</p> <p>一方、I C Tを効果的に活用した教職員の授業研究に対する指導主事等の評価は高く、こうした効果的な活用事例を積み重ねていくことが重要である。</p> <p>I C T支援員事業の効果検証等も含め、教育委員会としても真に必要な施策を検証していく必要がある。</p>

⑮ 新型コロナウイルス感染症感染予防対策への取り組み

評 価	評価根拠
B 60	<p>ウィズコロナ、ポストコロナが叫ばれる中で、感染拡大に留意しながらも、教育委員会と学校が密に連携して対応を検討できた。</p> <p>過度な感染症対策により教育活動に支障をきたすことのないよう、対策を実施できた。</p>

(5) 社会教育

① 芸術文化事業の実施

評 価	評価根拠
B 60	<p>東京都島しょ芸術文化推進事業として、パシフィックフィルハーモニア東京の団員による弦楽四重奏の演奏会を実施できた。参加者も100名程度と、盛況な会となった。</p> <p>また、IP告知端末等により、関連動画等を周知し、更なる学びにつなげるなど、新たな取組も実施できた。</p>

② 家庭への教育支援推進事業

評 価	評価根拠
A 90	<p>予算の範囲で教育費の無償化を図っている。</p> <p>就学援助・利島村奨学金貸付・離島高校生就学支援事業の執行等、学校保護者負担の軽減に努めている。</p> <p>上記のように教育費負担軽減策としては他自治体と比較しても優れているが、教育委員会としては、そうした取組を「見える化」し、理解促進を図ることも必要である。</p> <p>一方、経済的な負担軽減策以外にも、ソフト面の家庭教育支援ができないか、検討を進める必要がある。</p>

③ 文化財保護の充実

評 価	評価根拠
B 50	<p>学校のふるさと学習に関して、教育委員会として、郷土資料館の開放等を実施した。</p> <p>整備が完了した東京都指定史跡大石山遺跡の活用をさらに図っていくための方策を検討する必要がある。</p> <p>「デジタル村史」の作成など、伝統文化を次世代につないでいく観点から、現在の文化財や記録をどのように残していくのか検討を進める。</p>

④ 地域教育力の活性化

評 価	評価根拠
B 50	<p>放課後子供教室において、子どもたちの居場所作りの一環として、教育課程外の指導を支援している。指導に当たっている団体、また個人に対して教育委員会として補助金を出し支援した。</p> <p>村民の活動を応援すべく各同好会へ活動に補助金を出している。また、今後とも広報等を活用し、それぞれの活動の活性化を図っていききたい。</p> <p>活動費用の補助だけでなく、各種団体がより充実した活用ができるよう、各種団体との情報共有を強化することが必要である。</p>

⑤ 子供虐待の防止に関する活動の推進

評 価	評価根拠
B 50	<p>村全体で子供の面倒を見るという慣習は利島の良さであり、村民の理解、協力を得て続けていきたい。教育委員会として、多世代交流を促進するためのイベントの実施や、児童虐待防止のための普及啓発活動などが必要である。</p> <p>現在、子供への虐待はないものと認識しているが、仮に虐待が発生した際の、情報共有体制整備等も必要である。</p>

(6) その他

① 保育園との連携

評 価	評価根拠
B 50	コロナ前に実施されていたALTの保育園における外国語活動の再開、学校運営協議会及び就学指導委員会への参画など、保育園との連携は少しずつではあるが築くことができている。 引き続き情報共有等を丁寧に行っていく。

② 施設・設備

評 価	評価根拠
B 50	郷土資料館の活用については、来館する方々に対し、必要とする情報を提供できるよう努めた。郷土資料館の整備については東京都とも協議し、引き続き進めていく。一方、郷土資料館の入場者数等を把握し、改善の方向性を検討することが必要。 また大石山遺跡の活用については、今後さらに活用の充実を図るため、具体策の検討が必要である。 社会スポーツ施設であるテニスコートの活用促進策についても検討が必要。

6 有識者からの意見

弟子丸 知樹（文部科学省 施設企画課 企画係長・利島村前教育長）

村山村長が「私の公約の一丁目一番地である教育改革」（令和7年所信表明）と述べているように、利島の未来は教育にかかっていると見え、島の皆さんからは教育委員会に対して、非常に大きな期待が寄せられています。そうした状況下で、教育委員会の役割は、報告書3ページの通り、島の宝である子供たちを島全体で支えていくような取組、それらを担う大人自身も成長できるような取組を実施していくことだと考えています。

また、報告書10ページの通り、令和6年度予算については「利島ならではの」教育の充実発展に資するべく、関係者への意見聴取等も行いながら原案を作成したところですが、「利島村“人づくりが島づくり”大綱」に則り、極めて少人数の体制の中、三室教育長を中心として意欲的な取組を進められていると思います。

令和6年度「利島村教育委員会の事務の管理及び執行の状況の点検及び評価」に関する意見として、以下3つに分けて記載いたします。なお、報告書5ページにあるように、評価期間である令和6年4月～令和7年3月のうち、令和6年4月～9月については在任期間中でしたので、主観も入りうることをご了承ください。ただければ幸いです。

1 総論・新規主要事業等について

利島も含め、小規模自治体の教育委員会の取組の方向性としては、①今を改善する施策、②未来を変える施策の2つがあります。具体的には、①島の皆さんが今、必要だと思っていることや困っていること、②利島の将来を俯瞰した時に、島内から必ずしもニーズが上がってこなくても取り組んでおく必要があることの2点です。そしてそれら①②を組み合わせながら施策展開していくことが重要になります。

報告書に記載されている新規事業のうち、例えば報告書6ページの（1）「15の春」子供・家庭事業は、高校受験を前に経済的負担が増加するという保護者の方からの声を形にしたもので、①今を改善する施策に該当しますし、報告書7ページの（3）小中学校耐力度調査委託事業は、今すぐ目に見えて成果が出るものではありませんが、老朽化した校舎を今後どうしていくのか考え、取組として具体化するための極めて重要な事業ですので、②未来を変える施策に該当すると言えます。また、報告書6ページの（2）自動草刈り機導入事業は、人手不足や働き方改革といった島の今の課題を解決するための施策でありながら、機械にできることは機械に任せて限られたマンパワーを効率的に活用するという、島の将来の姿を提示する副次的な効果もあり、①②両方に関わる施策だと思っています。

当然この①②にはグラデーションがありますが、①を更に進めるために、島の皆さんの声が役場に届きやすいという小離島のメリットを生かし、今後も島の皆さんとの日々のコミュニケーションを施策に反映させていただければと思います。②は、数十年後の社会情勢や次世代のことを想像・議論し、多少

の賛否があっても進めなければならない時もあります。難しい調整が必要なこともあります。村の将来に責任を持つ教育委員会として、ぜひ前向きな取組を進めていただければと思います。

なお、本報告書に関する改善提案として、利島小中学校で実施されている学校評価アンケートの結果等も必要に応じて記載することで、より島民の皆様に伝わりやすい報告書になると感じました。

2 島の宝である子供たちを島全体で支える取組

令和6年度からスタートした義務教育学校への移行は、東京都伊豆諸島・小笠原諸島の学校で初のケースとなりました。利島の未来を考えた時に、今のタイミングで必ず実施すべきであると考えた取組です。報告書13ページに記載のある「1年生から9年生までの一体的なカリキュラムの作成」など、義務教育学校のメリットを生かした取組を更に進めていただくことを期待します。島の宝である子供たちのことを第一に考え、子供たちの「15の春」に向けた自立をサポートいただきたいとします。

その際、村山村長が令和6年所信表明で述べているように、「これまでの良さを継承しつつも、新たな取組を積極的に取り入れ」ることで、「未来の利島のキープレイヤー」の育成につなげていくことが重要です。「これまでの良さを継承する」とは、利島の強みを生かすと言い換えることもできます。例えば、報告書12ページに記載の子供たちの習熟度を反映した授業展開など、「個別指導に近い状態での学習指導」が可能な環境は全国的に見て極めて珍しく、極小規模校である利島小中学校の強みとなるものです。他方、「新たな取組を積極的に取り入れる」とは、GIGAスクール構想による子供主体の学びの実現が挙げられます。利島村はICT活用のためのソフト・ハード両面の環境も充実していますので、デジタルを効果的に活用し、利島ならではの特色ある教育活動につなげていただくことを期待します。教育大綱（“人づくりが島づくり”大綱）にある「教師が育つ利島」として、村教委独自の取組を拡充するとともに、「授業改善推進拠点校」や「東京教師道場」など、東京都教育委員会の各種支援策も有効活用しながら、先生方自身が成長できる環境整備を引き続き進めていただきたいとします。

また、子供たちを島全体で支えるためには、学校・家庭・地域が目的を共有しながら、各種取組を進めていくことが必要不可欠です。「15の春自立シート」の作成時のように、この三者の想いや願いをすり合わせる機会を設定することも有効だと思います。報告書11ページにあるように、多様性の尊重により様々な考え方がある中ですが、利島村に適した取組を実践することが重要になります。小説家の辻村深月さんの「島はぼくら」という小説の中で、こんな一説があります。

「——プロの演劇じゃないんだから、それでいいんだ。学芸会の脚本なんだから。大事なものは、島と学校が、観ている人を交えて盛り上がることだ。そういう空間を作ることが、演劇の一つの役割でもある。」

報告書14ページに記載されている通り、利島村の学校行事は、子供たちが主役であるとともに、地域の方々にとって大切な機会です。村内配布のタブレット端末を活用した地域の方々への参加呼びかけなど、地域を巻き込む取組を引き続き進めていただきたいとします。

加えて、子供たちを支えるために、子供たちを支える家庭を支えることも重要となります。私も利島

村の奨学金制度やその他支援は、「他自治体に比べても手厚い」（報告書P9）と思っており、今後は支援策を拡充するよりは、利島村の充実した支援策の周知に力を入れることも必要だと考えています。

3 大人自身も成長できるような取組

「良い学校が良い島をつくり、良い島が良い学校をつくる」と言われます。後者に着目すると、まず大人が背中で語り、もしくは言葉で語りながら、良い島を創りあげていくことが必要です。そのためには、大人自身が島づくりの「当事者」として楽しみながら学び続け、成長できる環境づくりが求められます。利島村は社会教育・社会体育活動も盛んですので、そうした活動に対してメリハリをつけて支援していくことにより、「一体感のある島づくり」を進めていくことが重要です。

また、先輩たちの多大なる努力・ご尽力により成り立っている利島を、次世代につないでいくために、利島の歴史をより分かりやすい形で伝えていくことが必要になります。報告書17ページの「デジタル村史」は、そのためのキラーコンテンツになると思いますので、期待を寄せています。

最後になりますが、私自身、利島を離れて約1年が経過してしまいましたが、引き続き利島の役に立てるように研鑽を重ねていきたいと思えます。利島の皆様と利島村の更なるご活躍、発展を祈念いたします。